

## 【化学】

東海の化学においてまず注意すべき点は原子量が少数1桁になっていることである。しかも、全体的に計算問題の割合が多いのでややスピードを上げて取り組む必要がある。

理論化学では酸化還元滴定、蒸気圧と沸点、凝固点、電離平衡をよくチェックしておこう。有機では脂肪族、芳香族の混合問題、特に異性体が出題されやすい。また抽出による分離も要注意と言える。

無機内容では計算問題になりやすい分野

- ① 接触法、オストワルト法（濃度計算）
- ② 融解電解、水酸化ナトリウムの隔膜法（ファラデー計算）

なども狙われる可能性があると思う。

## 【英語】

東海大学の医学部の問題は「総合力」が要求される。記述問題が苦手な時間のかかる生徒は時間的に厳しいものがあるかも知れない。7割位記述の解答を完成させておいてから最後の見直しの段階で「微修正」を加えて完全な記述にする方が良いと思われる。

ビジュアルについては「折れ線グラフ」だろう。ビジュアルの中でわからない単語があるとミスをする可能性がある。特に計算させる問題が出るとわからなくなる可能性が高い。ビジュアルの中の単語の意味がわからないとそれが何のグラフなのか意味がつかめなくなる可能性がある。

計算問題や考えさせる問題が出るといったん捨てる位の勇気も必要だろうと思う。それよりも全体の解答の完成度を上げることに集中した方がいい。